
覚えてない

茄子野郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

覚えてない

【ZPDF】

Z0299Q

【作者名】

茄子野郎

【あらすじ】

忘年会で飲みすぎた男。気づいたら便座を抱えて眠っていた。
何も覚えていないがその間にあったことは…

『気がつくと自分の家の便座を抱きかかえていた。

「あれ?…俺なんで家に着いてんだ?昨日は…忘年会だつたんだよな…」

店で数人と日本酒を水のよつにガブ飲みしていたことは覚えていたが

そのあとの記憶がまるでない。冷静になつて思い出すとするが全く思い出せない。

とりあえず顔を洗おうと洗面台の鏡を見た。

「な、何だこの傷は!」

右頬に誰かに思いつきり引っかかれたよつた傷がついている。しかもよく自分をみるとネクタイはボロボロのよれよれ、スリの上着はどこにもない。

嫌な予感がした。昨日は忘年会だったからお偉いさんも沢山来ていた…

もし、変なことをしでかしてたら…

幸運なことに財布と携帯はカバンの中にあった。恐る恐る同期の佐藤に電話をかけてみた。

「お、おい…俺気がついたら顔に傷つくなつて上着はないしネクタイはヨレヨレの状態で便座抱きかかえて寝てたんだけど…

「…昨日なんか変なことしてないよな?」

「…お、お前ほんとにも覚えてないのか…?」

「…あ、ああ。昨日むしゃくしゃしてちょっと飲みすぎたんだよ…」

ま、まさかとは思うが課長とかに変なこととしてないよな?」「か、覚悟して聞けよ… おまえもう会社来れないかもしれないぞ…」

佐藤はゆつくつとした口調で昨日の「」とを話し出した。

「ま、まずお前は昨日酔つ払つてネクタイを課長のハゲ頭に思い切り巻きつけて」のHロドM野郎と罵つた拳銃にひちやんにさんざん卑猥な言葉を投げかけて

怒らせて思いつきり平手打ちを食らつてだな…」

終わった…。何もかもが。

ぱーっとしてとりあえずテレビをつけてみた。

大好きな女子アナが殺人事件のニュースを讀んでいるが、内容が全く頭に入つてこない。

「あ、あと上着は田中にお前のところに届けるように言つてある。

大丈夫だつて。必死に謝れば課長も鬼じやないんだから許してくれるつて。」

「そ、そとかな…まあでも明日は一日中いびられるな… ああ…

終わった

「じゃあな」

「ピンポーン」

しばらく呆然としているとインター ホンが鳴つた。

…田中かな。あいつにも謝らなきやな。

もひじばりく酒は控えよつ、そつ誓つた。

翌日、俺は狭い部屋でハゲ頭の中年のオヤジに一日中怒鳴られていた。

まさかあんなことをしてたなんて…。詳しく説明されても全く

覚えていないのだった。

だが覚えていないからと黙つて決して許してはくれなかつた。

「ネクタイを思いつきり巻きつけたんだよな？」

「本当に酔つていて覚えてないんです……すいません」

「酒飲んで覚えてないからつてやつていいことと悪いことの区別ぐらいつくだろ？」

「そんで思いつきり頬引つかれたら？」

「「めんなさい。本当に覚えてません……」

「おはよつー！」やいまーす！あれ？あいつ遅くないですか？

「この後あいつの物凄い暗い面白い顔見れますよ。

俺昨日あいつに忘年会で酔つ払つて物凄い事したつて嘘ついたんですよ（笑）」

「……ニコース見てないのか？」

「えつ？」

「あいつ昨日捕まつたつて。

忘年会の夜にネクタイで見知らぬ女性の首絞めて……。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0299q/>

覚えてない

2011年1月12日22時55分発行